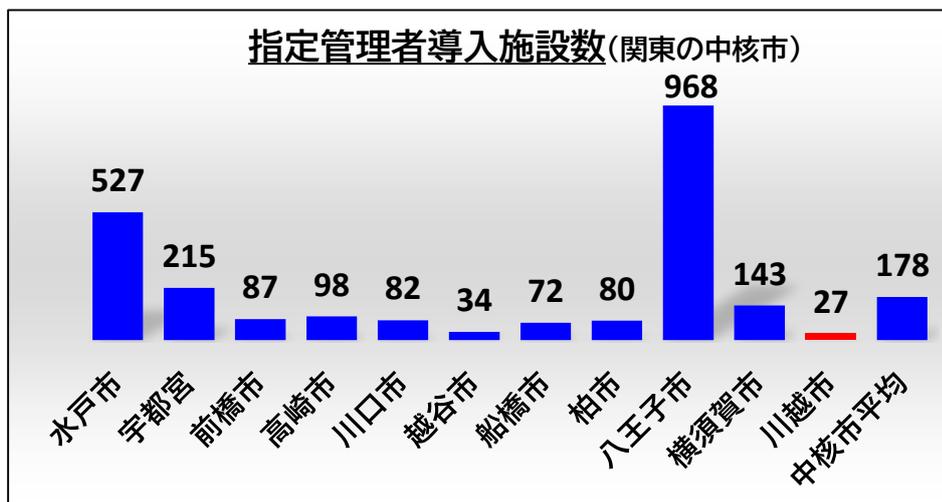


中核市の中で2番目に少ない川越市

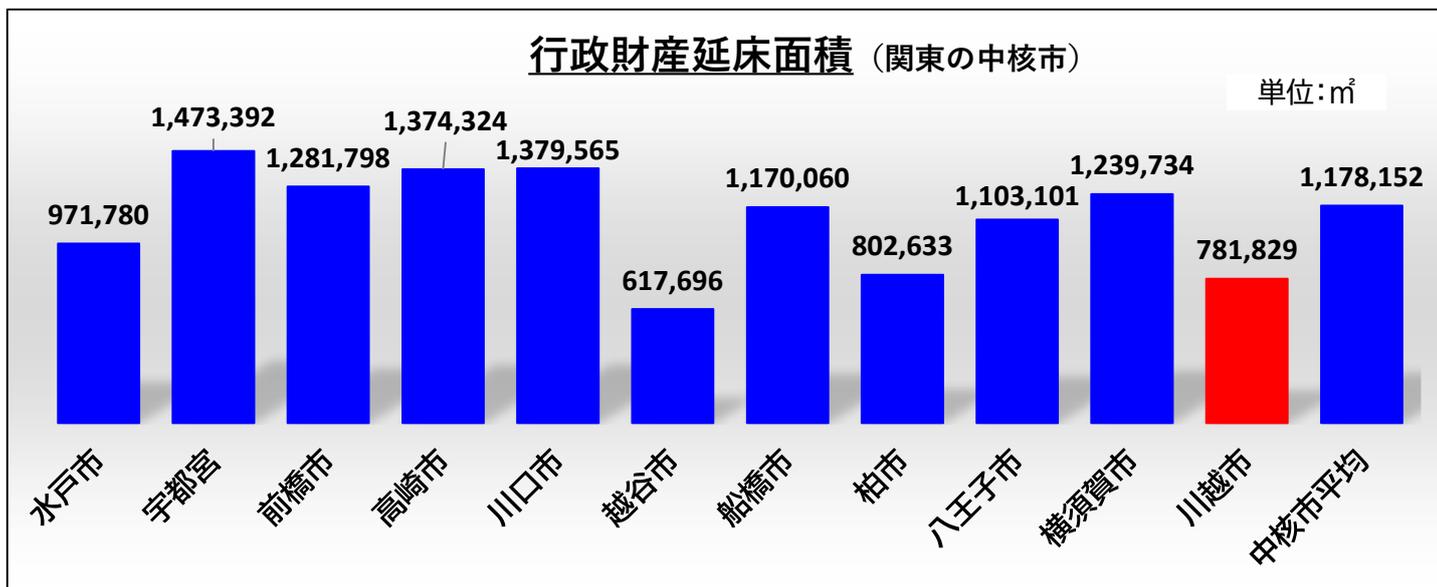
今回の一般質問では、川越市が、公的施設の管理運営を民間に任せることが他市に比べ極端に少ないこと

を例示しました。指定管理者制度は、民間に施設の管理運営を任せることで、サービス水準の向上やコストの削減などの効果を狙った制度ですが、川越市の指定管理者導入施設数は、62ある中核市(2023年2月)の中で、大分市の14に次ぐ27施設で、2番目に少ない状況でした。人件費の割合が高いことを課題とするのであれば、検討すべき分野であると指摘し、市も十分検討していくと答えました。



公共施設も少ないのに物件費の割合が高い？

物件費の割合が高い理由として、公共施設の維持管理費の増大が背景にあるとの認識が示されましたが、そもそも、本市には維持管理すべき公共施設が少ないことを指摘しました。下の図でも明らかなように、中核市平均より約39.7万㎡少なく、全中核市中、下から7番目の面積となっています。にもかかわらず、物件費の割合が高い要因の一つが、有償借地、つまり、家賃を払って借りている土地に公共施設が建っているケースが多いことが挙げられます。この点は市も認識していましたが、非効率的な施設の維持管理が財政を圧迫している現状の一端を示しているのではないのでしょうか。



詰めの議論に至らず

今回の一般質問では、人口動態、財政、商業、工業等について広く現状の分析を求めた他、個別に学校、公民館、出張所、スポーツ施設、市道等の施設についての現状分析と、それを踏まえた今後の方向性への考え方を聞き、その後、個々の課題を踏まえた議論をしていきたいと考えておりました。しかし、他の部署との関連性を示さず、狭い所管内の事柄のみに終始した答弁の数々に、議論の進行を諦めざるをえませんでした。川越市全体のまちづくりを議論するにあたり、どの分野であれ、担当部署以外を視野に入れない答弁などありえないと私は考えています。どんな施設がどこにあるべきなのか、力を入れたい分野を推進するために課題になっているのは何か、一つの部署のみですべてが完結する事業など本来ないはずです。

この度の一般質問を行うにあたり、多くの職員の方とお話をさせていただきましたが、少なくない方が、他の部署に及ぶ発言を避け、過去の方針考え方に触れることを避け、意見を言わず、所属の見解の身をくり返しました。

そこで、副市長に、今の市役所はものが言えない空気があるのか、職員のモチベーションの低下はないか、認識を問いましたが、副市長は、「そのような事があるとは思っていない、今後も人材の育成と確保に努める」との考えを示しました。

水戸市	宇都宮	前橋市	高崎市	川口市	越谷市	船橋市	柏市	八王子市	横須賀市
971,780	1,473,392	1,281,798	1,374,324	1,379,565	617,696	1,170,060	802,633	1,103,101	1,239,734

水戸市	宇都宮	前橋市	高崎市	川口市	越谷市	船橋市	柏市	八王子市	横須賀市
527	215	87	98	82	34	72	80	968	143

川越市	中核市平均
781,829	1,178,152

川越市	中核市平均
27	178